



土岐市
TEL
FAX
メールアドレス
所
発行責任者
発行日
題

教育研究所
0572-54-1111 (内371)
0572-55-6310
kyoiku@city.toki.lg.jp
No.545
所長 長谷川 広和
令和元年5月10日
山田 恭正 教育長



『中学校生活のスタート』
入学式直後の学級活動
撮影者 泉中学校
宮口 直樹 先生



「夢と絆」

土岐市教育研究所長 長谷川 広和

満開の桜のもと、小・中学校の入学式に参列しました。名前を呼ばれた時の「はい」の返事や、目を合わせ、背筋を伸ばして話を聴く姿に、身に付けた力を発揮しようとする子供たちの頑張りや幼稚園や小学校の先生方のこれまでの指導の積み重ねを感じることができました。また、入学する子どもたちに先生方や保護者、地域の方々の視線が集まる様子をみながら、土岐市の子どもは、多くの方に見守られ、支えられ、丹精込めて育てていただいていることを実感しました。子どもを通して、多くの方々の気持ちが揃う。そんな瞬間に出会えた喜びを味わわせていただきました。

さて、新元号の発表とともに平成31年度が始まりました。「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められています。土岐市の教育理念「夢を持ち、人との絆の中で育ち合う」との重なりを感じます。この「令和」のもと、先生方と共に「夢・絆」を育みたいと気持ちを新たにしました。

平成30年の土岐市子ども調査（小5・中2対象）では、将来の夢について、小学生71.4%、中学生55.6%が「ある」と答えています。夢が「ない」理由としては、「具体的に何も思い浮か

ばない」と、小学生58.9%、中学生75.6%が答えています。

昨年、NHK番組の「チョコちゃんに叱られる」で、『なんで大人になると、あっという間に1年が過ぎるのか』という質問に「それは人生にトキメキがなくなったから」とありました。千葉大の1川誠教授は、「人の時間の感じ方は心がどの位動いているのか（トキメキ）が重要。ただの作業ではトキメキはない。子どもは、日々様々な感情が生まれて心が動いている。」と解説しました。

学校では、「心が動く」「心に響く」「心に届く」という言葉をよく使います。教師が子どもの心の有り様に関心をもち、心への働きかけを通して子どもに充実感や達成感を味わわせようとしているからです。日々の授業や生活の中で、この「心が動く」瞬間を作りだせるかが「楽しさが味わえる学校」「夢を育む学校」の鍵だと思います。子どもの心がときめく事象や体験などを準備したり、ふとした日常の出来事での個々の思いを仲間と共感したりするなかで、子どものもつ感性を磨いていくことが、「夢」につながるものだと思います。子どもたちとともに、「心が動く」日常を作りだすことを大切にしていきたいと思っています。

土岐市役所

新庁舎と教育委員会

土岐市教育長 山田 恭正

元号が「令和」となり、新しい時代を迎え、とても新鮮な気持ちになっています。

今、平成の30年間を振り返るとき、教育の状況はもちろん、土岐市の学校、園もずいぶん変化をしています。

児童生徒数の減少も著しく、平成元年の小学生数4,771人、中学生数3,006人、今年度4/1現在、小学生数2,913人、中学生数1,423人となっています。今後、更に児童生徒数は減少するとともに、社会の変化、そしてそれに伴う教育への期待も大きなものになっていきます。

変化をしっかり見極め、土岐市の教育の更なる発展と充実に努めていきたいと思えます。

さて、平成29年10月から建設を進めてきました土岐市役所新庁舎が完成し、今年3月18日から、開庁しています。

新庁舎は、現庁舎の南隣に建設され、3階建てで、南側の山並みの稜線を背景になじむような造りになっています。



(南側からのイメージ図)

前庁舎は、昭和41年から利用し、築50年以上経過し、耐震性や老朽化、バリアフリー化などへの問題を抱えていました。

新庁舎での業務開始に併せて、今年4月1日から、より機能的な業務の推進及び市民へのサービス向上等を目的に、組織改編を行っています。教育委員会事務局内の課の編成も次のように改編しました。

<従前>	<改編後>
庶務課	→ 教育総務課
学校教育課	(庶務係、学校教育係)
文化振興課	→ 文化スポーツ課
スポーツ振興課	(文化振興係、 スポーツ振興係)

※他の課は、従前とおり

業務の内容は従前と変わりませんが、事務局内の組織をコンパクトにすることで、業務執行をこれまでより円滑、活性化させていきます。

また、事務局内の各課の横の連携が課題となっていたことが、この改編で改善できると期待しています。

教育委員会事務局は、2階ほぼ中央に位置しています。多くの先生方の来庁をお待ちしています。

教育研究所からのお知らせ

新庁舎移転に伴い、研究書物や研究実践の記録等は、泉中学校の一室で閲覧できるよう整備中です。閲覧や貸し出しの希望がある場合は、研究所へ一報ください。

また、これまで行っていました授業、教育相談等も引き続き市役所又は泉中学校で行っていきます。事前にご連絡ください。

(連絡先：54-1264 直通 河合、西尾)

「子どもの主体で自己実現する学校にしたい

～本気になる子どもを求めて～

土岐市小中学校校長会長 古川 直利

子どもが主体的に自己実現する姿、すなわち内面が育ち、本気になった姿にわたしはうれしさを感じています。平成30年度の修了式、4年生児童の話です。



「去年の4月、校長先生から新しい自分に出会う一年を始めましょうという話を聞きました。どうということかと教室で担任の先生と話をしました。私にとっての新しい自分は何だろうと考えるようになりました。その中で最も自分が変わっていきたいことが見えてきました。それはみんなの前で堂々と話すということでした。自信がなくて、発表することに苦手意識を感じていた自分が、新しく変わることができると思い、考えを持ったり、話し方を考えたりすることを努力し、挙手しようと思いました。

学級の仲間の多くが発表する雰囲気誘われ、手を上げてみました。さっそく指名され、どきどきしながら話してみました。仲間が、同じ考えですと言ってくれ、すこしできたと思いました。またチャレンジしてみました。間違えたときは友達が他の意見もありますと言ってくれて、うれしくなりました。またもっと話そうと思いました。

自分がどんどん変わり、学習することが楽しくなってきた自分を感じるようになりました。そして今は、全校の前で話すことができます。本当に新しい自分に出会えた一年間になりました。来年もまた新しい自分を見つけ、仲間の中で挑戦しようと思います。」と。

わたしたちは学校教育目標の具現を求め、学校運営構想を核として教職員との共有から実践を進めています。わたしたちが求める姿、内容、方向

性についてどこまで子どもが自分事としてとらえ、本気になり、計画的に取り組んでいるのか。教師側の思いと子ども側の思いを合致させ、子どもが主体的に取り組むためにはどうすればよいのか。いつも考えます。

学校教育目標の内容に向かうには、個の思いが大切にされ、自ら内面に働きかけ、取り組もうとする過程が重要です。この過程に目を向けさせるために、わたしはいつも一つのキーワードを使います。

それは「新しい自分に出会いましょう」です。わたしが校長としてこの言葉を使うようになって5年。この言葉には子どもや教職員の心を動かす何かがあると思っています。「目標」と「指導、実践」をつなぐもの、あるいは「間に入る手立て」とでも言いましょうか、そういうものです。校長が一年間、この言葉を意識的に使い、子どもたち、教職員に働きかけていくこと。それにより、子どもや教職員は自分の内面を見つめ、変わろうとします。

他学年児童からの手紙にも「過去の自分を動かしました」「変わりたいと挑戦したら・・・」などの内容があり、学習、生活、心をよりよく変えていこうとする様子、変わっていく過程、自信に至った内容が伝わってきました。

教職員も同じです。自分が何を求めどうしたのか。そして新たな力を見いだしたことを。

一人一人の子どもたちや教職員が自分の有り様、心の中を見つめ、新たな目標を設定し、仲間の中で努力する姿を具現できたことは、私一人ではありません。下石小学校の教職員組織がこのうねりを生み出し、子どもたち一人一人を見届けて指導し続けてきたからです。わたしは先生方の取組に大きな喜びを感じました。子どもたち一人一人が本気になり、力を付けようとするには、校長の思いと具体的な方向設定、そして何より教職員で共有した組織的指導が必要なのでしょう。

わたしは今年もこの取組を始めています。

浅野教室ができること

—よりよく適応できる子を目指して—

土岐市教育相談適応指導教室 室長 齋木 孝明



このイラストにあるような子どもさんや保護者がいらっしゃったとき、学校をサポートできる機関の一つが浅野教室です。正式名称は、土岐市教育相談適応指導教室と言い教育委員会の出先機関です。

学校の先生方が、本教室を活用していただくにあたり、次のような流れを知っておいてくださると、連携がスムーズになると思います。

Q 「浅野教室の適応指導につなげられないかと考えている子どもがいますが…」

A まず教育相談担当や教育相談コーディネーターに相談し、自校の管理職の先生につないでもらってください。

- ①学校が「必要あり」と判断されれば、学校と保護者で懇談をしていただき、学校から浅野教室に連絡（教育相談）をお願いします。
- ②保護者にも浅野教室を使いたい意向がある時は、次に浅野教室と学校の担当者で懇談し、保護者をどう迎え入れて話を進めていくのかを相談します。
- ③その後、保護者と本人・学校・浅野教室の三者が懇談し、適応指導の進め方と学校との連携について共有します。三者が揃って懇談することで行き違いを防ぐことができ、方向が確かに定まります。また、一度に三者が集まらずので、連絡の取り合いを省くことができ、効率的です。浅野教室への通所を実現するためには、申請書に記述のある約束を遵守することが前提になりますので必ず共有してください。合意に至れば「『浅野教室』通所許可申請書」（お渡しします）を学校が作成して、教育委員会へ申請の届けをすることになります。そして、教育委員会から許可があれば、学校と浅野教室に連絡が入り、適応指導教室への通所が開始となります。

このQ&Aは、浅野教室の第1の機能である「適応指導教室」の機能を利用する手順と方法についてお示しました。

浅野教室には、あと2つの機能があります。

「教育相談」という第2の機能

前述の適応指導の機能を使いたいとお考えになったときも、まずは学校から浅野教室への教育相談から始まります。相談の形態は、電話相談と来室相談があります。まずは電話で相談を受け、来室相談へつなぐケースが多いです。

教育相談には訪問相談もあり、年間3回は浅野教室から全学校へうかがう訪問もあります。

「カウンセリング」という第3の機能

その1 個別カウンセリング

各学校には校区ごとにSCが配置されています。浅野教室にも土岐市採用のカウンセラー(A・C)の配置があり、毎週木曜日の10時～15時まで詰めています。予約制で、昨年度はほぼどの時間帯にも予約がありましたが、学校からの要請に応えることができる時もあります。SCの予約が一杯でカウンセリングのやりくりで苦慮されているときや、児童生徒の特性を検査などによって理解の助けとしたいときなどあれば管理職の先生の指導のもとでご一報ください。

その2 グループカウンセリング

毎月第3木曜日の13時30分～14時30分に、グループカウンセリングをしています。不登校など適応に苦慮しているお子さんをおもりの保護者の方々の現状を、参加者が皆で伺いながら、気づいたことや共感できることを出し合い、上述のACもアドバイスを送るという形式です。昨年度は、毎回3～5名の参加者がありました。学校の先生も同席される機会があり、内容のよさを評価していただきました。

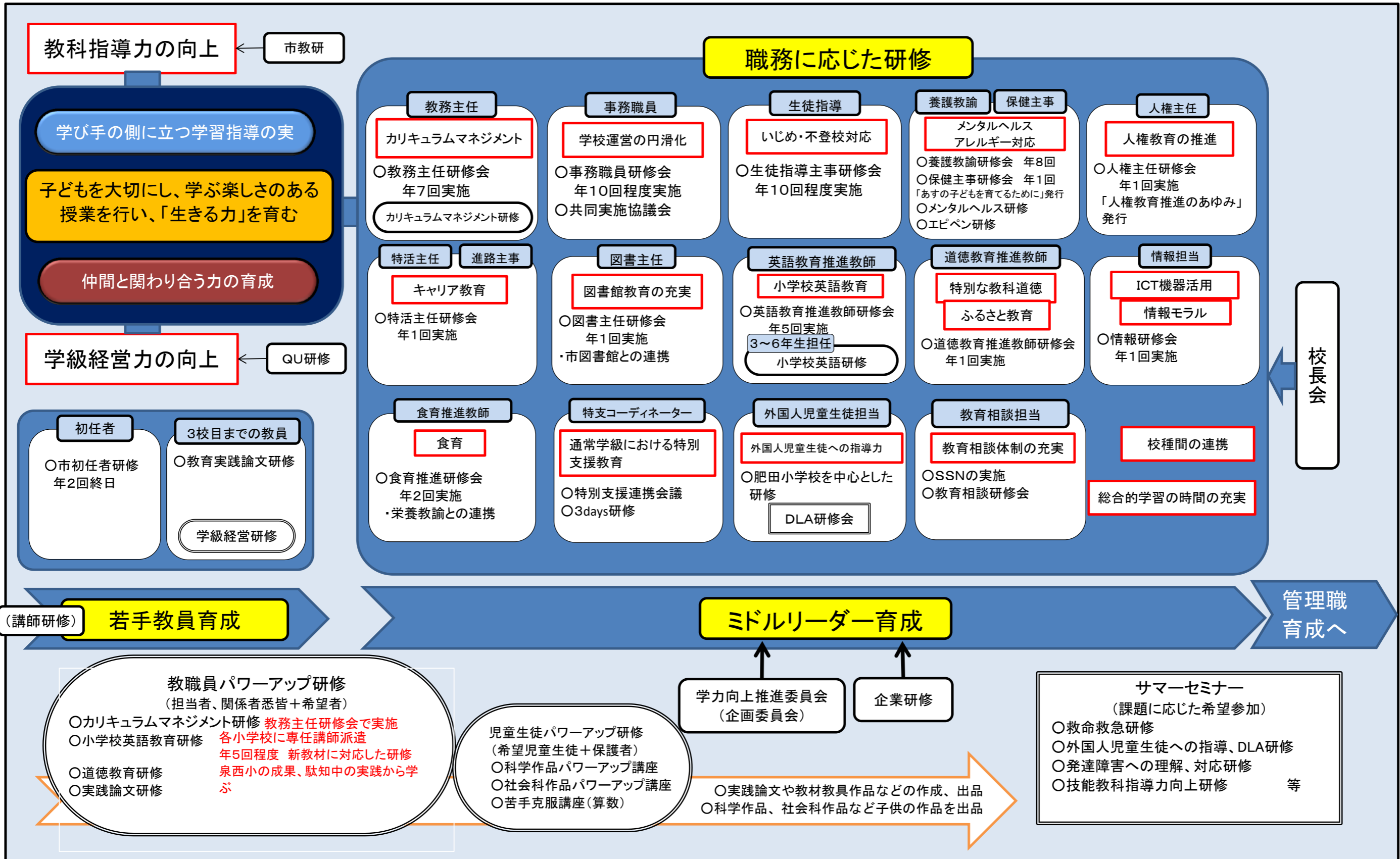
浅野教室は、9時から15時まで開いています。（適応指導教室は火曜日と木曜日は午前中のみ）冒頭のようなケースがありましたら、浅野教室の利用をご一考ください。

基本方針

教職員としての魅力や実践的指導力を高める
研修の充実

研修の重点

- ① ミドルリーダーの育成を図る研修の充実
- ② 経験・職務に応じた研修の充実
- ③ 今日の課題に対応する研修の充実



2019年度 土岐市小中学校教育研究会の活動

第1回の活動において、各部会のテーマ及び役員が決定されました。授業研究を中心として活動計画が立案されています。役員さんを中心に、主体的・創造的な部会運営を通して、教科の仲間としての連携を深め、研究の歩みや成果を財産として残していきましょう。

【土岐市テーマ】 子どもを大切に、学ぶ楽しさのある授業を行い、「生きる力」を育む

【各部会研究テーマ】

部 会	研究テーマ	
小 学 校 教 科 研	国 語	一人一人の言語能力をのばす国語科授業の在り方
	社 会	よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習 ～子どもが社会とつながる授業を通して～
	算 数	見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方
	理 科	理科の見方・考え方を意識的に働かせ、自然を追求する理科学習
	音 楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽のよさを実感できる授業
	図 工	ひとりひとりに「つくる喜び」を ～豊かな心と表現力を育てる造形美術教育～
	家 庭	よりよい生活を創り出す豊かな心と実践力の育成 ～「してもらう自分」から「できる・生かす自分」へ～
	体 育	仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わう体育学習の創造
	外国語活動	外国語を通してコミュニケーション能力の素地を養う指導の在り方
中 学 校 教 科 研	国 語	生きてはたらく言語能力の育成
	社 会	主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習
	数 学	学ぶ楽しさを実感させる数学教育の創出
	理 科	深い学びを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育てる理科指導
	音 楽	楽しさと確かさの中に、美しさを求める音楽教育 ～音楽的な見方・考え方を働かせて、音や音楽、音楽文化とより豊かにかかわる授業～
	美 術	ひとりひとりに「つくる喜び」を ～豊かな心と表現力を育てる造形美術教育～
	保健体育	「運動／集団」学習の効果的な指導の在り方を求めて
	技術・家庭	生活での実践に生かす力の育成を目指した授業
英 語	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導	
小中	特別支援	豊かな生活をめざし、生きる力を共に高め合う子どもたち ～一貫性・柔軟性のある支援体制・支援方法の一層の充実に焦点を当てて～
各 種 研	養護教諭	心身ともに健康で安全な生活を送ることができる子の育成 ～執務内容の質を高め共有化し、保健教育の充実を図る～
	事 務	研修をとおして知識・経験の共有を図り、学校事務の効率化を推進する ～事務主任としてふさわしい資質を身につけよう～
	栄 養	児童生徒が生涯にわたり健康な生活を送るための「食に関する指導」の推進を目指して ～実践力を高めるためのつながる食育～

土岐市小中学校教育研究会 2019年度 各部会 部会長・役員の皆さん

部会	部会長	学校名	主務者	学校名	世話役	学校名	県代議員	学校名	
小学校 教科 研	国語	小木曾 寛美	駄知小	岩崎 美智子	土岐津小	伊野 沙由美	土岐津小	伊野 沙由美	土岐津小
	社会	郷 通芳	泉西小	高津 宏尚	妻木小	木戸 隆博	下石小	平林 尚子	泉西小
	算数	廣島 由美子	下石小	小木曾 欣巳	妻木小	加藤 恵	濃南小	伊藤 康代	濃南小
	理科	杉浦 正佳	土岐津小	中島 健志	駄知小	岸田 里奈	泉小	中島 健志	駄知小
	生活								
	音楽	知原 勝成	肥田小	林 ゆりか	妻木小	田中 しほ美	下石小	伊藤 知子	泉小
	図工	古川 直利	下石小	長田 智子	泉小	野村 美智子	駄知小	坂田 まさみ	下石小
	家庭	橋本 勇治	泉小	臼井 康子	泉西小	近藤 綾香	泉西小	荒川 将之	泉西小
	体育	清本 直子	泉小	野々垣 邦彦	泉小	松田 絵梨沙	泉小	島戸 貴由	泉西小
	外国語活	篠原 徹	濃南小	大野 篤司	土岐津小	福井 友美	土岐津小		
中学校 教科 研	国語	田中 直樹	肥田中	加藤 理名	土岐津中	加藤 宏峰	濃南中	山口 綾菜	泉中
	社会	氷室 武志	肥田中	北川 慎二	濃南中	桑原 幹	西陵中	佐々木 武	西陵中
	数学	伊藤 策雄	西陵中	高野 直紀	西陵中	成瀬 公志郎	泉中	今西 賀寿真	土岐津中
	理科	竹中 正仁	濃南中	仲田 達矢	土岐津中	奥谷 治由	西陵中	仲田 達矢	土岐津中
	音楽	丸山 真理子	駄知中	長谷川 朋子	駄知中	澤村 志乃	泉中	長谷川 朋子	駄知中
	美術	古川 直利	下石小	林 裕二	濃南中	小池 智明	泉中	小池 智明	泉中
	保体	佐藤 勝也	土岐津中	稲山 竜太	泉中	坂田 芳朗	泉中	稲山 竜太	泉中
	技家	橋本 勇治	泉小	林 祥太	泉中	早瀬 浩孝	土岐津中	土本 裕之	西陵中
英語	勝川 秀樹	肥田中	松葉 祐太	西陵中	宮本 真実	駄知中	松葉 祐太	西陵中	
小中	特別支援	楯 博子 本多 直也	妻木小 泉中	松崎 寿哉	駄知小	青木 典子	駄知小	水野 浩庫	土岐津小
各種研	養教	郷 通芳	泉西小	土屋 京子	西陵中	土屋 京子	西陵中	吉本 光枝	土岐津小
	事務	橋本 勇治	泉小	長江 美香	西陵中	今井 里奈	土岐津中	長江 美香	西陵中
	栄養	伊藤 策雄	西陵中	鈴木 晃子	土岐津中	日比野 友記	土岐津小	鈴木 晃子	土岐津中

1年間よろしくお願ひします!

「心にひびく言葉」

「おはようございます」「行ってらっしゃい」

妻木小学校 校長 楯 博子

遠くから「おはようございます」と元気な声が聞こえる。頭を下げて丁寧に「おはようございます」と言う子もいる。

朝、学校裏の横断歩道で子どもたちを迎えていると、たくさんの挨拶の声を聞きます。小さな声で「おはようございます」という子や、中には、こちらから挨拶しても下を向いてしまう子もいますが、朝から子どもたちの元気な声を聞いて、毎日とても気持ちの良い朝を過ごしています。

あいさつは、人間関係を築く基本です。以前、本で「挨拶（あいさつ）とは心を開いて相手に近づくこと」と読んだことがあります。「挨拶」という言葉には、「挨・・・心を開く」「拶・・・相手に近づく」という意味があり、「あいさつ」は、「あ

なたに好意を持っています」というサインで、相手の存在を認めていることを積極的に伝える行為であると書かれていました。

家を出る時に「行ってらっしゃい」と元気よく送り出され、地域の人に「おはよう」「行ってらっしゃい」と声をかけられる子どもたちは、自分は多くの人に認められていることを自覚します。それは、自分を好きになり、自分に自信をもつことにつながると思います。

私は、あいさつする意味とあいさつをすることのよさを子どもに伝え、たとえ、返事が返ってこなくても、自分から「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」とあいさつをしていきたいと思っています。

掲 示 板

本年度もよろしくお願ひします

【教育研究所】〈前列左より〉

主 任 河合 広映
所 長 長谷川 広和（教育次長）
指導主事 西尾 新

〈後列左より〉

指導主事 片田 誠（教育総務課管理主事）
嘱託指導主事 安藤 篤
事務職員 伊藤 のり子



【ALT】

〈左より〉
ウィリアム
スワン
ローガン
マッカーシー
オリビア
プラウマン



【浅野教室】

〈左より〉
室長
齋木 孝明
相談員
加藤 千穂

